



# バンコク便り



## 1. はじめに

新型コロナウイルス対策としてタイで非常事態宣言が発令されてから約1ヶ月が経ちました。商業施設の閉鎖や夜間外出禁止令等もあり感染者数が減少傾向となり、1日当たりの感染者数も15~30人程度の増加となっています。このまま減少傾向が続けば経済活動の再開が期待されておりましたが、同宣言の5月末までの延長が決まったこともあり、今後も感染防止に向けた取り組みを行う必要があります。

## 2. 当地ビジネス情報

### (①ドン・キホーテ2号店オープン)

3月31日、総合ディスカウントストア「ドン・キホーテ」のタイ2号店がBTSチットロム駅から徒歩約10分の場所に位置する商業施設「ザ・マーケット・バンコク」内にオープンしました。

タイ1号店のドンキモールトンローと同様に日本産の青果物、鮮魚、精肉といった生鮮食品、酒類、日用消耗品、家庭雑貨品などが取り扱われます。周辺は大型商業施設セントラルワールドなどがあり、観光客も多く来ることが予想されます。現在は新型コロナウイルスの影響によりほとんどの入居テナントが休業している中でも、一定の買い物客が来店するなど、注目度の高さは感じられました。商業施設の営業が再開となれば、バンコク中心部の新たなスポットとして注目が集まります。

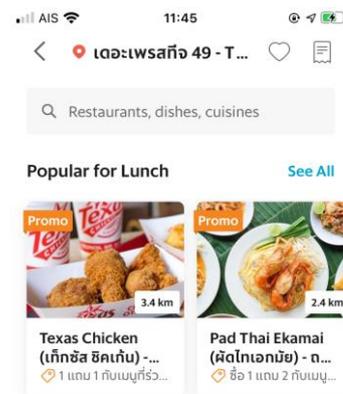


店内入口の様子

### (②フードデリバリー事情)

タイではフードデリバリー文化が浸透しています。カシコンリサーチセンターによると、2014年~2018年のフードデリバリー市場の伸び率は平均で10%となり外食市場の3~4%を大きく上回っています。スマートフォンアプリ（GRAB、フードパンダ等）から簡単に注文できることや食事の時短ニーズなどがタイ人気質と合致した結果とも言えそうです。

新型コロナウイルスの影響で1ヶ月前から飲食店の営業がテイクアウトやデリバリーに特化していることもあり、モールや飲食店に設置されたテイクアウト受付ブースには配送スタッフが多数待機している様子などから、フードデリバリーを非常に多くの方が利用していることが分かります。最近ではスーパーのオンラインショップの活用も普及するなど外食からネットを使った注文へと消費者の行動にも変化がみられます。



カシコン銀行も出資する  
GRABのアプリ注文画面

## 3. 現地トピックス

### (酒類の販売禁止措置)



お酒購入のための来店者

タイでは新型コロナ感染防止策として、酒類の販売禁止措置が取られています。県によって違いはあり、バンコクでは4月10日~20日までとされていましたが、その後4月末まで延長されました（再延長の可能性あり）。本措置は感染者数が減少傾向とはいえ、4月13日~15日のタイ正月ソクラーンを祝う集団での飲酒を防ぐ目的がありました。

販売禁止措置が前日夕方に発表されるとすぐ、スーパーにはお酒を求めの人が溢れ入場規制が行われる事態となり、閉店まで混みあっていました。突然の発表に市民は混乱し、本来は避ける必要がある密集の中で買いだめが行われる事態となってしまいました。最近では今まであまり目にすることがなかった、ノンアルコールビールが商品棚に並び、販売再開までもう少しの我慢をしているところです。

【本件に関する連絡先】 営業推進部 地方創生室 石井・高橋・榎 023-626-9050

【作成協力】 カシコン銀行日系金融法人チーム（在バンコク）